

中学校区におけるめざす子ども像
人から信頼され、何事も徹底してやりぬくたくましい子

令和7年度 学校教育目標 『多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成』～自律と対話～
みんながっていい(多様性)自分で決める(自律)違いを対話で分かり合う(対話)

<p>確かな学びの現状 本校では、「積極的に学習に向かう力」や「粘り強く取組む力」など、『学び続けることができる児童』の育成をめざし、さまざまな取組を行ってきた。成果としてノートに自分の考えやふりかえりを書かせたり、本校独自の漢字検定や計算検定に粘り強く取り組んだりすることにより、「分かりたい」という学びに向かう姿勢が見られた。一方、既習事項をどのように生かせばよいのか分からなかったり既習事項が定着していなかったりする児童においては「自分で考える」「粘り強さ」などが減少している。みんなが「分かる」学習指導の追求をし、基礎学力の定着を図り、『学ぶ姿勢』の育成が必要である。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状 ・全学年でのたてわり活動をおとして、仲間づくりを行っている。異学年交流を行う中で、上級生が下級生にやさしく接する姿が見られるなど、児童のつながりが深まっている。児童アンケートの結果から「違う学年の子と協力して活動している」では肯定評価94%であった。また、「自分のよいところや得意なところを知っている」が84%、「自分でやるときめたことは最後までがんばるようにしている」が89%で肯定的な回答をする児童が多い。 ・様々な体育の行事を通して、運動習慣を身につけさせ、体力向上の取り組みを行っている。また、朝ご飯を毎朝食べていない児童が約34%、1日に2回歯みがきをしていない児童は約23%で課題が見られる。また寝る時間が遅い(22時以降)の児童は約32%である。食育指導、眠育指導をおとして改善していきたい。</p>
---	---

大項目	中項目	具体的目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学力向上	『よく考える子』の育成をめざし、学ぶ姿勢と基礎学力を高める。	●すべての教育活動を通して、『学ぶ姿勢』(「学んだことを生かす」「主体的性)を育む。	・【学調】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」【学ア】「問題の解決に向けて色々な方法を自分で工夫し考えながら取り組んでいる」で肯定評価90%以上	学校アンケート	年度末	6年生の全国学力調査において「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で肯定評価が81%だった。学校アンケートの「問題の解決に向けて色々な方法を自分で工夫し考えながら取り組んでいる」のアンケート結果などに基づいて実態を把握していく。	◎ 「問題の解決に向けて色々な方法を自分で工夫し考えながら取り組んでいる」では肯定評価が84.9%だった。また「授業の内容を理解しようががんばっている」では87.2%が肯定評価であることから学習に対して「分かりたい」気持ちを引き出すことができた。	【各検定について】 年々積み重ねることで、成果は確実に出てきている。検定に対して取り組む過程(頑張り)を認めていきたい。 【読書活動について】 ◆学校では図書時間で借り読んでいるが、それを家庭に持って帰ったり家庭買ったりするなど、家庭であまり読む機会がない。 ◆家庭で大人も一緒に読んでいると、子どもも興味を持って読もうとする。 ◆子どもが小さいときは図書館などに行っていたが、今はなかなか行けないのも読書離れの原因ではないか。
			●学校独自の「漢字検定」、「計算検定」を実施し、事前事後の指導を行う。	・漢字検定の合格率90%以上 ・計算検定の合格率80%以上	自作テスト 学校アンケート	年度末	1学期の漢字検定は2年から6年までの検定であったが練習に励み、粘り強く指導した結果、91%が合格点を取った。文字を丁寧に書き、自ら進んで学習しようとする児童も増え、学校独自の取り組みの成果が表れている。今年度は漢字2回、計算2回の実施に変更したがどのような取り組み方が効果的であるか考えていく。	◎ 2学期の計算検定では82%、3学期の漢字検定では84%、計算検定では80%の児童が合格点をとった。漢字計算検定の取り組みを続け基礎学力の定着及び児童の自信に繋がった。 「漢字・計算検定に向けて、一生懸命に練習をがんばっている。」では90.7%が肯定評価だった。	
			●読書に親しむ態度を育てる。朝の読書タイムを充実させたり、読書月間を設けたりする。積極的に学校図書館を活用したり学校図書館以外の場所でも書籍に気軽に触れられる工夫をして、読書への意欲向上を図る。	「学校や家庭で進んで読書に取り組んでいる」で肯定評価70%以上 ・1人当たり貸出冊数55冊以上	学校アンケート 学校図書の貸出冊数	年度末	6年生の全国学力調査の「読書は好きですか」の設問で67%だった。「堺市児童生徒調査(3～6年)」 「学校アンケート」など今後もアンケート結果に基づいて実態を把握していく。	○ 「学校や家庭で進んで読書に取り組んでいる」で肯定評価が50%だった。1人当たりの貸出冊数は41冊だった。	
授業改善	事前検討重視型校内研修を進め、全教員の授業力を高める。	●各教科の学習において『学ぶ姿勢』(「自分で考える」)学習を生かす「粘り強さ」「まねる」)に重点を置き、『全員がわかる』授業づくりと評価を行う。	・「『全員が分かる』を意識した授業づくりをしている」で肯定評価80%以上	教職員アンケート	年度末	『全員がわかる』をテーマとし、事前検討会・模擬授業・研究授業(各3回)を行っている。今後も、児童の学びにどのような指導が効果的であるかを考えていく。	◎ 「『全員が分かる』を意識した授業づくりをしている」で肯定評価が100%だった。	【日々の授業について】 ◆少人数を生かしたきめ細かい授業に取り組んでくれているのではないと思う。 【外国語について】 ◆日常でも英語を使うことが増えているように思う。 ◆今年度は子どもとNSの先生との接点が多かったようで、英語に触れ合う機会が多かったよう。	
		●外国語科の授業力向上をめざし、3～6学年の4年間を見通した指導と評価について研修を進め、共通理解を図る。	・「外国語の授業や評価について研修を深めることができた」で肯定評価95%以上	教職員アンケート	年度末	英語推進担当を中心に、NS、担任と協力しながら授業計画や評価を行うことができていく。2学期からはさらにICTの活用を積極的に活用していく。	◎ 「外国語の授業や評価について研修を深めることができた」で肯定評価が100%だった。その結果児童の学校アンケートで「外国語の授業で、自分の考えや気持ちを外国語で話している。」で肯定評価が89.8%だった。		
		●児童にパソコンの技能を習得させ、情報活用能力を高めるために、ICTチェックリストに基づいて教職員のICT活用を推進する。	・「タブレットを使って、学習を進めている。(発表ノートやドリルパークなどのアプリを使う、まとめや発表をするときに調べ学習をする、動画を見る、写真を撮るなど)」で肯定評価80%以上	学校アンケート(児童用)	年度末	3年生以上で、毎日パソコンにログインし授業で活用したり、タイピング練習やスライドにまとめる活動に取り組んでいる。毎月家庭に持ち帰りドリルパークに取り組んでいる。	◎ アンケートの「タブレットを使って学習を進めている」の肯定評価が84.9%であった。児童はパソコンの基本的な操作ができて、発表ノートやドリルパークなどのアプリを活用することができる。新たにiPadを導入し、その際に改めてパソコンの使い方を指導した。		
豊かな心・健やかな体	強い子	●学校行事や学級活動を充実させ、自他の良さを認め合い自尊感情を高められる取り組みを行う。	・「たてわり活動では、違う学年の子と協力して活動している」「自分のとくいなことをしてしている」で肯定評価90%以上	学校アンケート	年度末	たてわり遠足や月1回のたてわり朝礼を通して違う学年の子と協力して活動している。	○ 「たてわり活動では、違う学年の子と協力して活動している」で81.4%、「自分のとくいなことをしてしている」で76.7%が肯定評価だった。	【たてわり活動について】 ◆少人数を生かしたたてわり活動を今後も続けていってほしい。 【人権教育について】 ◆いじめは絶対にしてはいけないのは、子どもたちはわかっていると思う。 ◆児童数が少なく関係性が深いので互いのことをよく知っていると思うが、知らず知らずのうちに言いすぎたりやりすぎたりしていないか注意深く見ていく必要がある。	
		●道徳科において「いじめ問題に関わる教材」を重点的に指導するとともに、教職員での研修を行い、いじめ問題に対する啓発を行う。	・「いじめは絶対してはいけないものだと知っている」肯定意見100%	学校アンケート	年度末	1学期に各学年でいじめ問題にかかわる授業や朝礼での啓発などを行っている。2学期以降も行う予定。また教職員へいじめに関わる研修を行った。	◎ ・いじめ問題にかかわる道徳授業および、教職員での研修を年間を通して行うことができた。 ・「いじめは絶対してはいけないものだと知っている」肯定意見は96.5%だった。		
		●なわとび検定を行う。	・各学年の目標値を達成する。 1年80% 2年80% 3年70% 4年60% 5年50% 6年40%	学校アンケート	年度末	今年度目標達成率 1年72% 2年69% 3年73% 4年44% 5年54% 6年50%	◎ (体育)目標未達成の学年もあるが、難易度の高い高学年の達成率が上がってきた。このまま来年度も行う。	【体育・保健行事について】 ◆なわとび検定について、少し難しい技もあるが、確実に能力は身につけているので、今後も継続してほしい。 ◆子ども食堂時のブラッシング指導がとても効果的である。本当にありがたい。	
小中連携	福泉中学校区の『めざす子ども像』の実現に向け、4校で共通理解を図りながら課題解決にせまる。	★小中一貫教育担当や研修主任、生徒指導主任が中心となって、中学校区の共通課題を見出し、一貫した学習指導や生徒指導をめざす。	・「学校間で参観に行く機会を増やす」肯定評価75%以上。	教職員アンケート	年度末	小中合同夏季研修を行い、テーマに分かれて交流した。小学校⇄中学校への参観を行い授業見学をした。	○ ・2学期以降も、公開授業や校内研修など中学校区の先生がお互いに参加することができた。 ・「学校間で参観に行く機会を増やす」肯定評価80%を上回った。		

校長より(年度末)本年度は「多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成」を重点目標に掲げ、全職員が一丸となって教育活動の充実に向けてまいりました。学習面では、本校独自の漢字・計算検定やICT機器の日常的な活用により、基礎学力の定着と情報活用能力の向上に確かな手応えを感じております。一方で、全国学力調査等の結果からも明らかなように、「わからないことに対して、自分なりに工夫して考え抜く粘り強さ」には依然として課題が残ります。来年度は、教職員の研修を深め、児童が主体的に思考を広げられる授業づくりをさらに加速させてまいります。特筆すべきは、児童の豊かな心や育む「縦割り活動」の成果です。アンケートにおいて「違う学年の子と協力して活動している」という肯定的な回答が94%に達したことは、本校の誇りです。少人数校の強みを活かし、上級生が下級生を慈しみ、下級生が上級生を慕うという家族のような心のつながりが、子どもたちの自己肯定感を高める大きな原動力となりました。また、登下校時の見守り活動や「子ども食堂」を通じた地域交流は、子どもたちに「守られている」という安心感と感謝の心を育んでくれました。地域の皆様の大変なるご支援に支えられた一年であったと、改めて深く感謝申し上げます。今後もこの強固な地域との絆を基盤とし、本プランで明確になった課題を一つずつ解決しながら、さらなる学校力の向上をめざして邁進してまいります。

学校関係者評価者から(年度末)
少ない人数の特性を活かした本校の教育活動や子どもたちの様子について、少人数だからこそ育まれる「学年を越えた絆」や「丁寧な学び」の成果が子どもの様子の随所に表れていると思う。また、スマホの使い方やSNSへの向き合い方、読書活動など長年に渡って課題となっている事象もあるが、今も十分に行っていると思うが、トラブル予防のためにも、学校からも保護者や子どもたちへの啓発を引き続き続けてほしい。今後とも、地域全体で子どもたちを支えていきたい。